平成３０年度　第１回　倫理審査委員会の記録概要

開催日時：平成３０年４月２４日(火)　１６：３０～１６：５５

開催場所：独立行政法人国立病院機構菊池病院　会議室

出席委員名：本田臨床研究部長、幸薬剤科長、大木事務部長、村田看護部長、飯田外部委員、緒方外部委員

審議事項　申請番号　２５４６

【課題名】　不眠を感じている安定期の患者へ主観的な睡眠を調査し支援方法を検討する

【申請者】　道口看護師

【概　要】　臨床の場では病棟の業務を行いながら多人数の患者に関わらなければならない状況のため、主観的睡眠については口頭で確認し、客観的な睡眠指標としては夜間の巡視による観察で把握している状況である。そのため看護師は「眠れている」と思っても、患者は「眠れていない」ということがあり、追加の睡眠薬を服用する場面をたびたび見かける。また看護師側も不眠を訴える患者に対して、医師の指示である不眠時薬の与薬(追加の睡眠薬)を第一選択として提供することが多い状況である。そこで患者の睡眠衛生の改善や療養生活の質向上に繋げていくためにも、主観的な睡眠を詳細に聴き、安定した睡眠が取れている患者と不眠を感じている患者を比較することで、どのような不眠を感じているのかを知ることが出来ると考えた。そして実際の睡眠状態を測定することで、より具体的な睡眠状態や不眠の質を知ることができ、その睡眠問題に応じた支援方法を検討することができると考え研究することとした。

【判　定】　承認

審議事項　申請番号　２５４７

【課題名】　外来通院アルツハイマー型認知症患者の栄養状態の把握および介入方法の検討

【申請者】　加來主任栄養士

【概　要】　厚生労働省の国民生活基盤調査(平成 28 年度)では、要介護となる原因の１位が認知症 18.0 %、２位が脳卒中 16.6 %、３位が高齢による泥弱 13.3 %と認知症や高齢が原因となった要介護者は多くみられる。
高齢患者の栄養評価を行った概報によると 10 ～ 50 %が低栄養との報告があり、アルツハイマー型認知症では、発症初期に除脂肪体重が減少するという報告や１年間の体重減少が４%以上あると急速な認知機能の低下が認められ MMSE が 6 ヶ月で 3 点以上低下するとの報告がある。また、認知症高齢者はそうでない人に比べて 8 倍転倒しやすく、53 歳以上の低栄養リスク者は 3 年間に転倒するリスクが 40 %増加するとの報告もあり、除脂肪体重を始め

とする体重減少や低栄養が、認知症症状の悪化や転倒、骨折による ADL や QOL の低下を引き起こす可能性は高い。このことから、認知症発症時や通院中の栄養評価を始めとする栄養ケアは重要と考える。しかし、本邦における外来通院アルツハイマー型認知症患者の栄養管理についての報告はなく、早期介入や介入後の効果についてエビデンス構築は急務である。

前述の通り、日本人かつ外来通院アルツハイマー型認知症患者の栄養状態及び栄養管理に関する報告は少ない。今回私たちは、外来通院アルツハイマー型認知症患者の栄養状態及び栄養摂取の状況について検討する。

【判　定】　承認